

前回策定委員会・ 都市計画審議会の振り返り

2022年10月7日

安芸高田市 企画部 政策企画課

1. 前回策定委員会での協議事項

- 前回策定委員会は2022年3月25日に開催され、以下の7項目の議事について協議を行いました。
- 議事（１）委員長の選出では、福山市立大学・渡邊一成委員が委員長として選出されました。
- また、議事（２）～議事（５）では、今回の計画策定の進め方や、計画策定の必要性について確認しました。

【前回策定委員会の議事】

- （１） 委員長の選出
- （２） 計画策定の進め方
- （３） 計画策定に向けたスケジュール
- （４） 都市計画の概要
- （５） マスタープランと立地適正化計画の概要
- （６） 現況分析・課題整理について
- （７） 全体構想・分野別方針について

1. 前回策定委員会での協議事項

○議事（6）「現状分析・課題整理について」では、統計データや市民アンケート調査の分析結果等をもとに、本市の都市計画・まちづくりにおける現状や課題について議論しました。

		解決すべき課題
安芸高田市の現状	①人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少により、一定の人口を必要とする生活サービス施設の維持や生活利便性の確保が困難となる可能性があり、対策が必要である。 ● 特に高齢者は日常生活における移動が困難となることが予想され、高齢者が安全・安心・快適に生活できるような居住環境確保、アクセス環境の整備が必要となる。 ● また、産業の担い手不足が見込まれ、活力の創出に向けた対策が求められる。
	②土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物用地の点在による都市のスプロール化が懸念され、その対策が必要である。 ● 現在放置されている空き家に対する対策、今後空き家を増やさないための対策が必要である。
	③公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化の進行が見込まれる中、将来的に免許返納等により移動困難者が増加する可能性があり、地域住民の移動手段の確保が求められる。 ● お太助ワゴン、お太助バス、もやい便、とろっこ便は赤字となっていることから、利用者のニーズに対応しつつ、公共交通の効率的な運用の検討が必要である。
	④産業	<ul style="list-style-type: none"> ● 卸売・小売業といった一定の人口を必要とする生活サービス施設が縮小し、日常的な買い物が困難になる等の状況が見込まれることから、ニーズに応じた商業機能の強化が求められる。 ● 観光客数の増加、観光消費額の増加に向けた観光業の活性化が求められる。 ● また、観光客が本市に来訪しやすく、市内の観光地を巡りやすいような公共交通の整備が求められる。 ● 産業の活性化を推進し、生活水準の維持や雇用の創出を図る必要がある。
	⑤都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 財政の悪化により、まちの維持に必要なコストの支払いが困難となることを防ぐため、都市施設の集約及び再編、適正配置、長寿命化等を行うことで、公共施設に対する維持管理費を削減する必要がある。 ● 都市施設の老朽化対策及び耐震化の推進が必要である。
	⑥防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 浸水想定区域付近の住民、特に高齢者の安全確保に配慮する必要がある。 ● インフラの耐震化・長寿命化、防災拠点の整備等、災害に強い都市基盤の整備の推進が求められる。 ● 災害リスクの低い区域への居住の誘導や、災害ハザードマップ等に基づくリスクの周知・啓発等のソフト対策の推進も必要である。
	⑦都市構造	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の適正配置により、施設を訪れやすい環境の整備が必要である。 ● 特に、高齢化の進行に伴い、日常移動が困難な高齢者が増えることが予想されるため、高齢者の都市機能へのアクセス確保が必要である。
	⑧市民アンケート調査生活	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民の生活行動パターンを踏まえ、都市機能の配置の適正化が必要である。 ● 過度な車依存からの脱却を図り、高齢等の理由で運転免許を返納した後も日常生活を快適に過ごせるよう、都市施設や公共交通網の整備が必要である。 ● コロナ禍による住民の外出頻度低下に伴い、地域コミュニティの弱体化等が懸念される。
	⑨市民アンケート調査意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在安芸高田市内に居住している住民が、将来にわたって住み続けたいと思える都市環境の整備が必要である。 ● 特に吉田町を中心に、災害リスクへの対応を強化すること等による、安心して暮らせるまちづくりが求められる。

目指すべきまちの方向性

コンパクトな都市の構築
 居住や都市機能の集約、施設の適正配置により、持続可能な都市の構築を図る。
 （対応項目：①②④⑤⑦⑧）

安全・安心な居住環境の確保
 災害リスクの低い安全な地域への居住誘導を図るとともにインフラの整備等を行い、ハード・ソフトの双方から安全・安心な居住環境の確保を図る。
 （対応項目：①②⑤⑥⑨）

活力の創出
 地域ならではの産業の活性化や、地域コミュニティの強化により、活力の創出を図る。
 （対応項目：①④⑧⑨）

交通アクセスの確保
 誰もが都市機能等の目的地へアクセスしやすい環境の整備を図る。
 （対応項目：①③④⑦⑧）

1. 前回策定委員会での協議事項

○議事（7）「全体構想・分野別方針について」では、前段で整理した課題や上位・関連計画等を踏まえた、本市のまちづくりにおける基本理念や基本目標、将来都市構造案、分野別方針について議論しました。

■まちづくりの基本理念

未来へ 続くまち 安芸高田

■基本目標

**居住や施設が集約された
持続可能なまちづくり**

居住や都市機能の集約、施設の適正配置により、持続可能な都市の構築を図る。

**だれもが安心して暮らせる
リスクに強いまちづくり**

災害リスクの低い安全な地域への居住誘導を図るとともにインフラの整備等を行い、ハード・ソフトの双方から安全・安心な居住環境の確保を図る。

**地域資源を活かした
活力あるまちづくり**

地域ならではの産業の活性化や、観光振興、雇用促進、地域コミュニティの強化等により、活力の創出を図る。

**目的地へアクセスしやすい
やさしいまちづくり**

誰もが都市機能等の目的地へアクセスしやすい環境の整備を図る。

■目指すべき まちの方向性

**コンパクトな
都市の構築**

**安全・安心な
居住環境の確保**

活力の創出

交通アクセスの確保

2. 前回策定委員会で出された意見とその対応

○議事（４）都市計画の概要、議事（５）マスタープランと立地適正化計画の概要に関して出された主な意見、およびその対応状況は以下の通りです。

発言者	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
高宮町振興会連絡協議会 辻駒委員	<p>コロナ禍ということで、これまで策定委員会が開けなかったという背景があるのは承知しているが、本件に関するアンケート調査が先行して実施され、今後のまちづくりの在り方について不安に感じている方も多い。</p> <p>私も本日の説明を受けるまで、資料5のp7に記載されている「コンパクトシティをめぐる誤解」に記載されているような誤解を持っていたが、今後、住民にも誤解や不安を解消してもらえるよう、説明を行う必要があると感じている。</p>	<p>広報の実施に併せて、地域別構想素案作成後の6町別の地域別意見交換会において、本計画を策定する狙い等について説明した。</p>	—
吉田町地域振興会連絡協議会 小川委員	<p>都市計画区域が吉田町内の一部区域のみということだが、この区域は誰が決定したのか。</p>	<p>本市の都市計画区域は昭和55年に決定された。都市計画区域の決定権者は広島県であるが、おそらく公共下水道の整備を目的に、当時の吉田町が要望したものと考えられる。</p>	—
吉田町地域振興会連絡協議会 小川委員	<p>市内にある限界集落のような地域も含めて、都市計画マスタープランの検討対象として考えていくという理解でよいか。</p>	<p>法律上、都市計画は都市計画区域内のみを対象とするものとされているが、当然、市内の他地域との関係性についても検討していく必要があるため、今回策定する都市計画マスタープランでは、市全域を対象とする予定である。</p>	—

2. 前回策定委員会で出された意見とその対応

○議事（6）現状分析・課題整理に関して出された主な意見、およびその対応状況は以下の通りです。(1/2)

発言者	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
広島県 廣中委員	資料の中身だけを見ると課題だらけであるように思われるが、決して暗い話だけではないと思う。 本市が保有する優れた自然環境や、神楽、毛利元就などの日本を代表するような地域資源など、市の強みの部分についても取り込んでいただき、強みにより利用しやすく魅力を高めていくとともに、本資料に記載いただいている課題については解決していく、という形でとりまとめてもらうとよいのではないかと。	本市が持つ自然・文化資源の概要について新たに整理を行った。 また、広島ビジョンや新型コロナを契機としたまちづくりの方向性、デジタル田園都市構想について追加整理を行い、「緑やオープンスペースの柔軟な活用」「地域産業の高度化」などを、特に本市のまちづくりに関連する項目として整理した。	本資料p12~16 計画素案第2章
広島県 廣中委員	現状として課題が顕在化しつつあるようなものについても検討してほしい。例えばアフターコロナを見据えた対応として、安芸高田市のような環境は3密を避けられる環境として強みにもなるのではないかと。あるいは、急速に発展するデジタル化についても、今後のまちづくりの中で取り込んでもらいたい。		
福山市立大学 渡邊委員長	現状、旧町役場の周辺には商業施設等もある程度集積している状態ではあるが、総人口の減少が見込まれる中で、今後、これらの施設が維持できるかという点が危惧される。 そのため、みんなでこれらの施設を利用し、残していく方法を考える必要がある。 例えば、住民が減るのであれば、観光客のような市外からの来訪者や、長距離運転手などの通過交通需要への対応に重点を置くなどの対応も考えられる。 このような、人口が減少するという現状に対して、どのように都市を持続・発展させるべきかという点については、この委員会を通して議論を行い、マスタープランに盛り込めるとよいのではないかと。	ご指摘を踏まえ、八千代町や甲田町の地域別構想において、通過交通需要等も考慮した都市機能維持を目指す「沿道居住エリア」を設定している。 その他、全体構想や地域別構想で定めた拠点における都市施設維持に向けた方策については、第4回策定委員会の議題として、実現化方策について検討予定である。	資料2
福山市立大学 渡邊委員長	P87に記載されている運転免許の保有有無について、性別での整理をお願いしたい。おそらく、特に高齢者では、女性の方が保有率は低いのではないかとと思われる。 また、p96に記載されている居住環境への満足度、および将来的に住み続けたいかどうかについて、年齢別に整理をお願いしたい。	性別での運転免許保有有無（高齢女性の保有率が低い）、および年齢別の居住環境への満足度、将来的に住み続けたいかどうか（高齢者のほうが満足度や定住意向が高い）に関する追加分析結果について分析した。	本資料p10,11
米子工業高等専門学校 加藤委員	5年前や10年前と比べると、他地域では高齢女性の免許保有率が増加しており、本市における公共交通機関の利用者が減少している一因となっている可能性もある。		

2. 前回策定委員会で出された意見とその対応

○議事（6）現状分析・課題整理に関して出された主な意見、およびその対応状況は以下の通りです。(2/2)

発言者	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
米子工業高等専門学校 加藤委員	公共交通の充実を求める意見が挙げられていることはp101等からも確認できるが、「日常の移動に不自由しない交通手段」がどの程度なのかなども深掘りして、本市として維持していくべき公共交通機関の水準等についても議論が必要と思われる。	本市の公共交通のあり方として、既にデマンド交通を含めた自宅から目的施設までの移動手段が構築されている。今後も、既存の公共交通は廃止されないよう、維持継続を図ることを目指し、デマンド交通を含めた移動手段の確保を基本としつつ、貨客混載等を含めた運行形態の効率化による経費削減・収支率改善の可能性を検討していく。なお、公共交通に関する取組方針については、今年度、本計画と並行して地域公共交通計画を策定予定であるため、今後、両計画の整合を取りつつ、交通に関する分野別方針や将来都市構造（案）について適宜見直しを行う予定。また、将来的に公共交通機関が廃止された場合は、地域公共交通計画についても見直しを行う。 ※地域公共交通計画の方向性は、第4回策定委員会までに提示見込み。	—
米子工業高等専門学校 加藤委員	自宅周辺／拠点地域に求める施設の回答結果からは、今の本市の都市構造を維持してほしいという意思を感じられるが、先程渡邊委員長からもご意見いただいた通り、特に民間施設をどのように維持していくか、議論が必要と考えている。		
米子工業高等専門学校 加藤委員	交通については、人だけを運ぶのではなく、貨客混載等によって収益性を高めていくことも考えられることから、交通計画ともあわせて検討いただきたい		
吉田町地域振興会連絡協議会 小川委員	交通について、芸備線や路線バスが今後も存続することを前提とされているが、10年後にこれらの路線が維持されているかは不透明であり、廃止された場合も含めた都市体系の検討が必要ではないか。		
広島県 廣中委員	P105に整理されている「目指すべきまちの方向性」について、「解決すべき課題」に加えて、デジタル化への対応や交流人口への対応など、社会情勢等の他の観点も含めて整理してほしい。	広島ビジョンや新型コロナを契機としたまちづくりの方向性、デジタル田園都市構想について追加整理を行い、それぞれの項目と「目指すべきまちづくりの方向性」の対応について整理した。 特にデジタル化への対応については、デジタル田園都市国家構想をはじめとした関連計画の動向を整理した。具体的な取組内容への反映については、市の既存施策であるスマートフォンの普及促進等を含め、今後、計画素案策定に向けて詳細を検討する。 また、交流人口への対応については、「交通」（交通拠点の機能維持・強化）や「都市環境・景観」（観光振興を通じた交流人口の確保）の分野別方針において方針を追記したほか、八千代町や甲田町の地域別構想において、通過交通需要等も考慮した都市機能維持を目指す「沿道居住エリア」を設定している。 なお、デジタル化への対応や交流人口への対応そのものは、都市計画マスタープランに対して間接的に対応するものであると認識しており、「目指すべきまちづくりの方向性」や「基本目標」への新たな項目立ては行わないこととする。	本資料p13～22 資料2 計画素案第2～4章

2. 前回策定委員会で出された意見とその対応

○議事（7）全体構想・分野別方針に関して出された主な意見、およびその対応状況は以下の通りです。

発言者	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
福山市立大学 渡邊委員長	交通に関する分野別方針として、中国自動車道高田ICの活用については検討してもよいのではないかと。 例えば、高速バスによる広域アクセスの確保等が考えられる。	ご意見を踏まえ、計画素案の交通に関する分野別方針として、中国自動車道高田IC周辺を交通結節点として活用する旨について記載している。	本資料p19 計画素案4-3節
福山市立大学 渡邊委員長	地域コミュニティの維持・活性化に関して、若い人にとっては、お祭りなどの事業が目的化しているという点が課題になっているのではないかと議論がされている。今回のマスタープラン策定で、32の地域振興会すべてに入り込んで議論することまでは難しいかもしれないが、地域コミュニティの活性化に向けたきっかけとなるような取組はしていただきたい。	地域別構想の素案作成後、6町別に地域別意見交換会を開催し、地域コミュニティの活性化に向けた取組等に関して住民の皆様のご意見を伺い、地域別構想を更新した。また、分野別方針についても、「地域活性化」に関する取組方針を追記した。	本資料p22 資料2 計画素案第4章
広島県 山田委員	県で東京・有楽町に移住相談窓口を設けているが、近年、安芸高田市の人気がじわじわと高まっている。地方移住を行う方は30歳代の方が最も多いが、これからの人生をかけられるようなやりがいのある暮らし方・働き方を求めている。安芸高田市は、尾道などと違って知名度はそこまで高くないが、しっかりと情報を届けば関心を持っていただける方も多しと感じている。マスタープランにおいても、そのような情報が届けられるような計画としていきたい。	移住希望者への対応については、分野別方針として新たに設定した「地域活性化」に関する取組方針において、「UIターン希望者等への情報提供」などの項目を記載した。	本資料p22 計画素案第4-6節
高宮町振興会連絡 協議会 辻駒委員	コンパクトシティに関するアンケートというものが先行する中で、先日町内での会合があったが、各支所の「すぐやる課」が4月からなくなるという話などが、コンパクトシティの一環であるように思われている。 我々としては、支所機能を充実してほしいと考えているし、自分たちで地域を守っていき、安心して老後を暮らせる町にしたいと考えている。 地域の多様な住民の意見、特に若い方の意見、女性の意見、高齢者の意見などを踏まえて、よりよい計画を策定してほしい。	地域別構想の素案作成後、6町別に地域別意見交換会を開催し、支所機能の充実や地域主体のまちづくりに向けた取組等に関して、女性、高齢者、商工会、病院関係者等を含む多様な住民の皆様のご意見を伺った上で、内容を更新した。	—
福山市立大学 渡邊委員長	パブリックコメント以外にも住民意見を確認する機会も設けるなど、住民対話は丁寧に実施いただけるとよい。		
福山市立大学 渡邊委員長	生活サービスの質を落とさないなどの前提条件や、将来的に維持していくことが可能な水準についても、整理することが必要ではないかと。	ご意見を踏まえ、計画素案の都市施設に関する分野別方針として、将来的に維持を目指すサービス水準を想定した上で施設の利用促進を行う旨を追記した。	本資料p18 計画素案4-2節
福山市立大学 渡邊委員長	デジタル活用、地域コミュニティの活用など、どのように解決をしていくかについても検討できると、先程のご意見も踏まえたよい計画が策定できると考えられる。	デジタル化への対応については、デジタル田園都市国家構想をはじめとした関連計画の動向を整理した。具体的な取組については、スマートフォンの普及促進等を含め、今後、計画素案策定に向けて詳細を検討する。また、地域コミュニティの活用については、分野別方針で「地域活性化」に関する取組方針を追記したほか、地域別構想でも6町別の取組方針を記載している。	本資料p14,22 資料2 計画素案第4.6節

3. 前回都市計画審議会が出された意見とその対応

○議事（6）現況分析・課題整理に関して出された主な意見、およびその対応状況は以下の通りです。

発言者	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
<p>県立広島大学 野原委員</p>	<p>公共交通を利用する高齢者が年々増えており、ニーズがだんだん出ている。特にお太助ワゴンも含めて公共交通が土曜、日曜に走らないため、走らせていただけると非常にありがたいといった要望があったことを、市民アンケートの補足としてお伝えする。</p>	<p>本計画では公共交通の具体的なダイヤ等についての検討は予定していないが、休日のお太助ワゴン・お太助バスの具体的な運行方針については、地域公共交通計画の検討において利用状況等を精査し、対応方針を検討する。</p>	<p>—</p>
<p>三次河川国道事務所 西尾委員</p>	<p>今の40代以上の世代は、旧町への居住にこだわりがあるが、30代以下の世代は市内であれば居住地にこだわらない、といった感覚があると捉えている。今後、マスタープランの絵姿を検討する中で、吉田町だけに集約し、田舎は切り捨てかといった、ネガティブな発想がある。例えば長野県伊那町での事例では、車を運転できず、パソコンも使えない人でも、ケーブルテレビのリモコンでその生活用品が買えるようになっている。さらに、これをお店からドローンで運んでいけば、普段の生活物は車を使わなくてもいい。</p>	<p>デジタル化への対応については、デジタル田園都市国家構想をはじめとした関連計画の動向を整理した。具体的な取組内容への反映については、市の既存施策であるスマートフォンの普及促進等を含め、今後、計画素案策定に向けて詳細を検討する。</p>	<p>本資料p14</p>
<p>三次河川国道事務所 西尾委員</p>	<p>空き家対策は、定住人口で考えず、働き方はいろいろあって、通信環境さえあれば田舎暮らしができる可能性があるのだと提案された上で、皆さんが前向きに、マスタープランに対して意見をいえるようなことをしていけると、後の半年が前向きな議論ができるのではないかと。</p>	<p>空き家対策や二拠点居住等による移住希望者への対応については、分野別方針（都市施設、地域活性化）に記載している。また、特に都市計画区域内に関しては、立地適正化計画の誘導施策にて具体的な取組内容を検討予定。</p>	<p>本資料p18,22 計画素案4章</p>

3. 前回都市計画審議会で出された意見とその対応

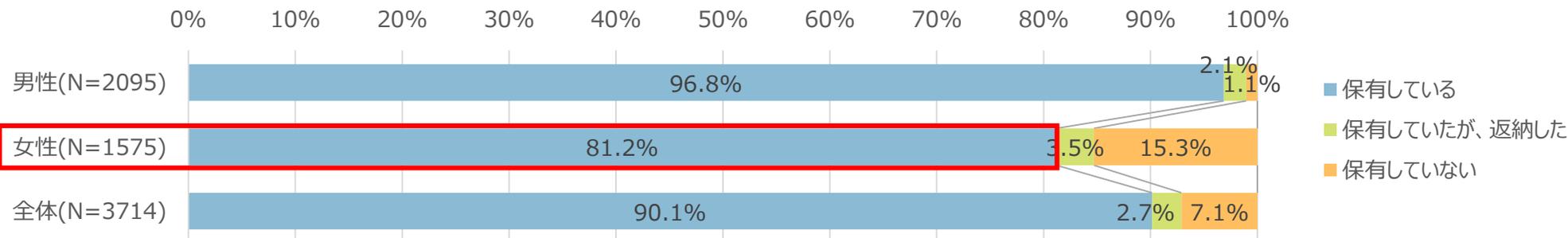
○議事（7）全体構想の検討に関して出された主な意見、およびその対応状況は以下の通りです。

発言者	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
安芸高田市議会 大下委員	安心、安全な暮らしを実現する上で、防災への対応に加え、医療面が課題となる。小児科や産婦人科がなければ、住もうと思っても住めない。 また、安芸高田市にもグラウンドがあるが、そこで仮に野球の県大会のような大きな大会をやるにしてもホテルがないため、朝早くから移動するか、近隣の市に宿泊するという形になる。都市計画施策として、宿泊施設の整備については検討してほしいという声がある。	ご指摘を踏まえ、「都市施設」の分野別方針において、取組内容として、日常生活に必要な都市機能を拠点に維持するための行政支援を追記した。	本資料p18 計画素案4-2節
県立広島大学 野原委員	障がい者や交通弱者への対応という表現があるが、これに限らず、全ての社会的弱者への配慮ということで検討いただきたい。	ご指摘を踏まえ、分野別方針の「都市環境・景観」に関する取組方針について、「高齢者や障がい者をはじめとした社会的弱者を含む」という表現に修正した。	本資料p20 計画素案4-4節
県立広島大学 野原委員	防災に関して、男女問わず誰もが避難しやすくなる、したくなるような場所を確保することも大事なことである。過去の震災では男性中心の防災になっている。女性の方々も気持ちよく避難しやすい環境づくりについてご検討いただきたい。	ご指摘を踏まえ、分野別方針の「防災」に関する取組方針として、「避難所におけるプライバシーの確保への配慮等を通じた避難行動の促進」を追加した。	本資料p21 計画素案4-5節
安芸高田市商工会 住吉委員	交通ネットワークに関して、高宮と吉田に矢印が入っているが、実際には美土里を經由するか甲田を經由する形になっている。 東広島高田道路について、本市の取組方針では「吉田～向原間の整備」となっている。以前、広島空港と高田インターを結ぶ構想を聞いたことがあるが、いかがか。	ご指摘の通り、将来都市構造等の拠点間連携軸には一部実際の道路事情に即していない箇所もあるが、吉田町の中心拠点と各町の地域拠点が行き来できる環境を整備するという方針として記載している。 東広島高田道路は、県の中央部地域と広島空港を結ぶフライト軸として整備計画をしているが、今は向原町の正力地区から吉田町の常友地区までの3.2キロの区間で整備を進めている。 分野別方針の「交通」では、中長期的な方針として、東広島高田道路全域を含めた幹線道路網の整備・充実について記載しているが、短期的な対応としては、現在整備中の区域について、早期開通に向けて県に整備を促したい。	本資料p19 計画素案4-3節
三次河川国道事務所 西尾委員	まちづくりの基本的方針について、県内かなりの地域が中山間地域ということで、いろいろな地域が抱える課題、安芸高田市と同じ共通の課題というものを抱えている。基本理念は安芸高田市を、他の市町の名前に変えても同じ形になる。そういった意味もあり、インターバル的になるのではなくて、やはり安芸高田市の特色に特化したような形のマスタープランにしていきたい。	ご指摘を踏まえ、地域別構想において地域活性化に関する項目を充実させるなど、安芸高田市独自の方針を盛り込んだ計画となるよう、引き続き検討を行う。	資料2

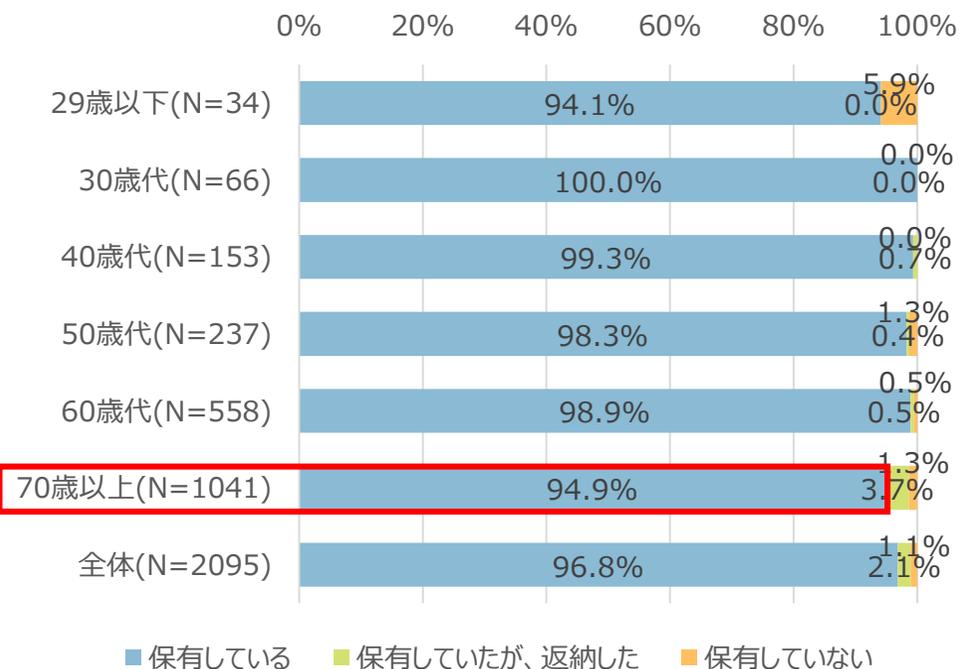
(参考) 市民アンケート調査に関する追加分析結果

- 運転免許の保有有無を性別に分析すると、女性のほうが保有率が低い。
- 特に、70歳以上では、男性の保有率が約95%であるのに対し、女性の保有率は約63%となっている。

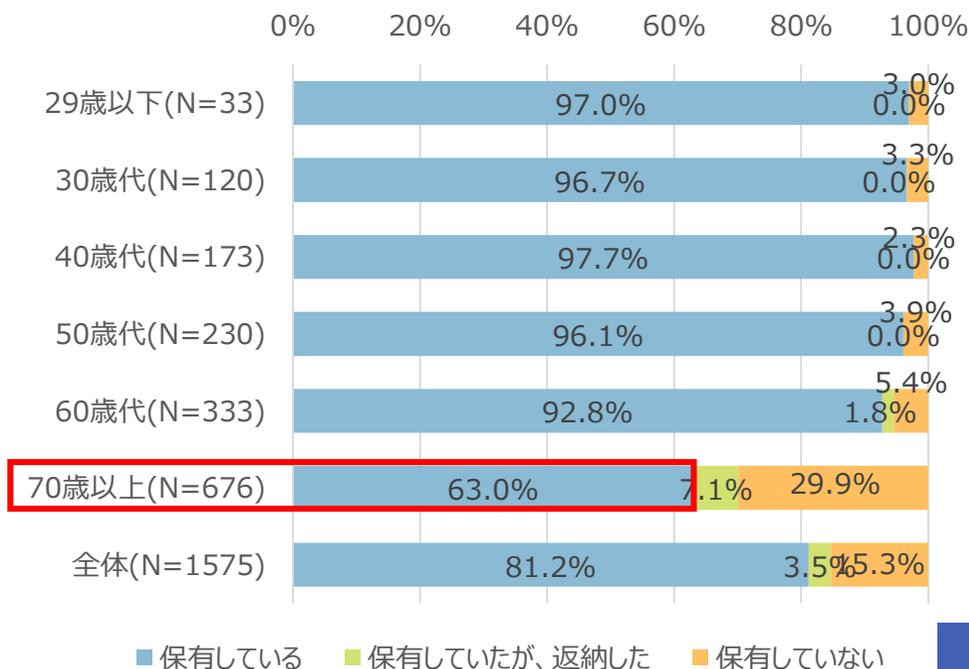
■ 性別免許保有状況



■ 年齢別免許保有状況 (男性)



■ 年齢別免許保有状況 (女性)

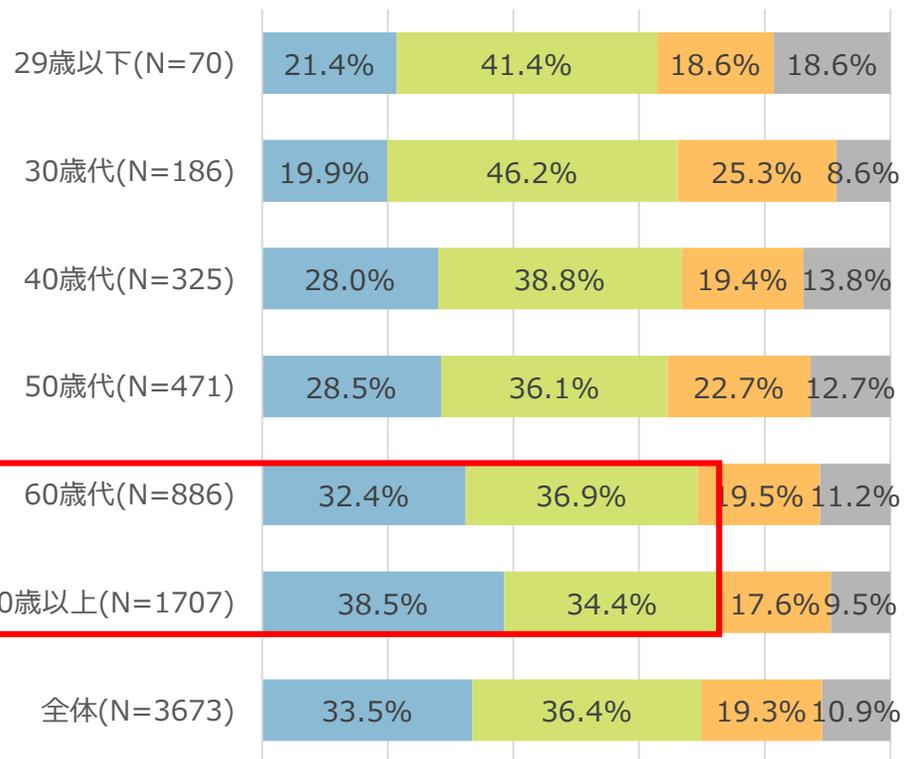


(参考) 市民アンケート調査に関する追加分析結果

- 居住環境への満足度や将来的な居住意向を年齢別に分析すると、高齢者のほうが満足度等が高い。
- 居住環境への不満の主な要因としては、商業施設の不足や家屋の老朽化、災害への不安等が挙げられている。

■ 年齢別の居住環境への満足度

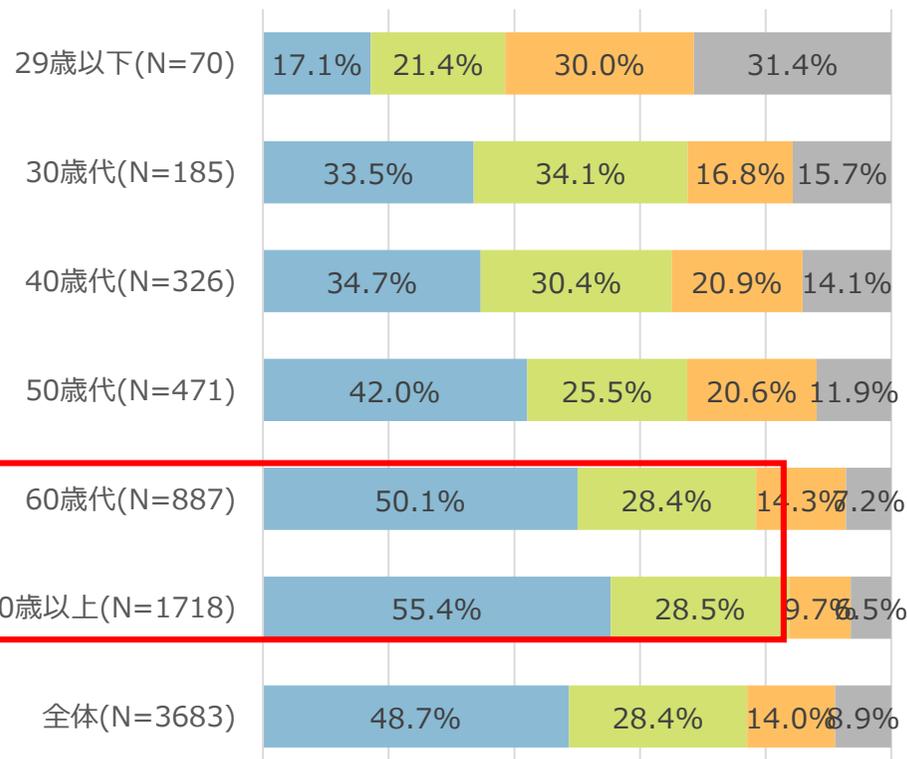
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 満足している ■ まあまあ満足している ■ やや不満である ■ 不満である

■ 年齢別の将来的な現居住地への定住意向

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 住み続けたい ■ どちらかと言えば住み続けたい ■ わからない ■ できれば将来は他の町/市外に移り住みたい

主な居住環境への不満の理由 (自由回答より)

- ・商業施設が充実していない (235票)
- ・災害への不安 (95票)
- ・家が老朽化している (103票)
- ・公共交通機関が不便 (84票) 等

(参考) 本市の主な地域資源

- 前回会議で説明が不十分であった、本市の地域資源に関する整理を行いました。
- 本市の主な地域資源として、ひろしま安芸高田神楽やはやし田に代表される文化資源や、土師ダムや棚田などの田園風景といった広大な自然資源が挙げられます。

【地域内の主な文化資源】

○ひろしま安芸高田神楽



出典：安芸高田市HP

市内の神楽団：計22団

吉田町：2団

八千代町：1団

美土里町：13団

高宮町：6団

主な神楽大会

- ・美土里神楽発表大会
- ・高校生の神楽甲子園
- ・子ども神楽発表大会
- ・高宮神楽まつり

○はやし田



出典：安芸高田市HP

国重要無形民俗文化財

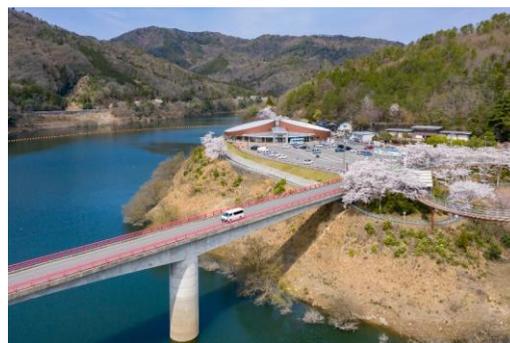
：1箇所（高宮町）

広島県無形民俗文化財

：3箇所（美土里町）

【地域内の主な自然資源】

○土師ダム



出典：あきたかたNAVI

○棚田などの田園風景



出典：安芸高田市HP

(参考) 上位・関連計画等の整理 | 安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン

- 安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョンでは、令和2年度以降の10年間において、目指す姿とその実現に向けた取組の方向性が示されている。
- 目指す姿として、「安心」「誇り」「挑戦」のキーワードが掲げられている。
- また、将来像の実現に向けた基本的な考え方として、広島県の強みである「密過ぎない都市」と「美しく自然豊かな中山間地域」、「都市と自然の近接性」を最大限生かし、「適散・適集」のフロントランナーを目指すことが定められている。
- 「DXの推進」、「ひろしまブランドの強化」、「人材育成」の3つの視点から施策に取り組むことを定めている。

■ 目指す姿

県民一人一人が「安心」の土台と「誇り」により、夢や希望に「挑戦」しています
～仕事も暮らしも。里もまちも。それぞれの欲張りなライフスタイルの実現～

■ 目指す姿の実現に向けた基本的な考え方

- ・ 県民の挑戦を後押し
- ・ 特性を生かした適散・適集な地域づくり

■ 施策を貫く3つの視点

経済成長と人口減少社会の課題解消を目指す「**DXの推進**」

「**ひろしまブランドの強化**」と国内外からの共感の獲得

生涯にわたって自己の能力と可能性を最大限に高める「**人材育成**」



(参考) 上位・関連計画等の整理 | デジタル田園都市国家構想

- 内閣府 地方創生推進室 デジタル庁にて、デジタル田園都市国家構想の検討が進められている。
- 地域の「暮らしや社会」、「教育や研究開発」、「産業や経済」をデジタル基盤の力により変革し、「大都市の利便性」と「地域の豊かさ」を融合した「デジタル田園都市」を構築するとともに、「心ゆたかな暮らし」(Well-being) と「持続可能な環境・社会・経済」(Sustainability) を実現することを目指している。

■ 目指すべきもの

地方の魅力をそのままに、都市に負けない利便性と可能性を

■ 実現に向けた取り組み

時代を先取るデジタル基盤整備

先端的サービスの普遍的提供

デジタルの恩恵を地域が享受するための制度整備

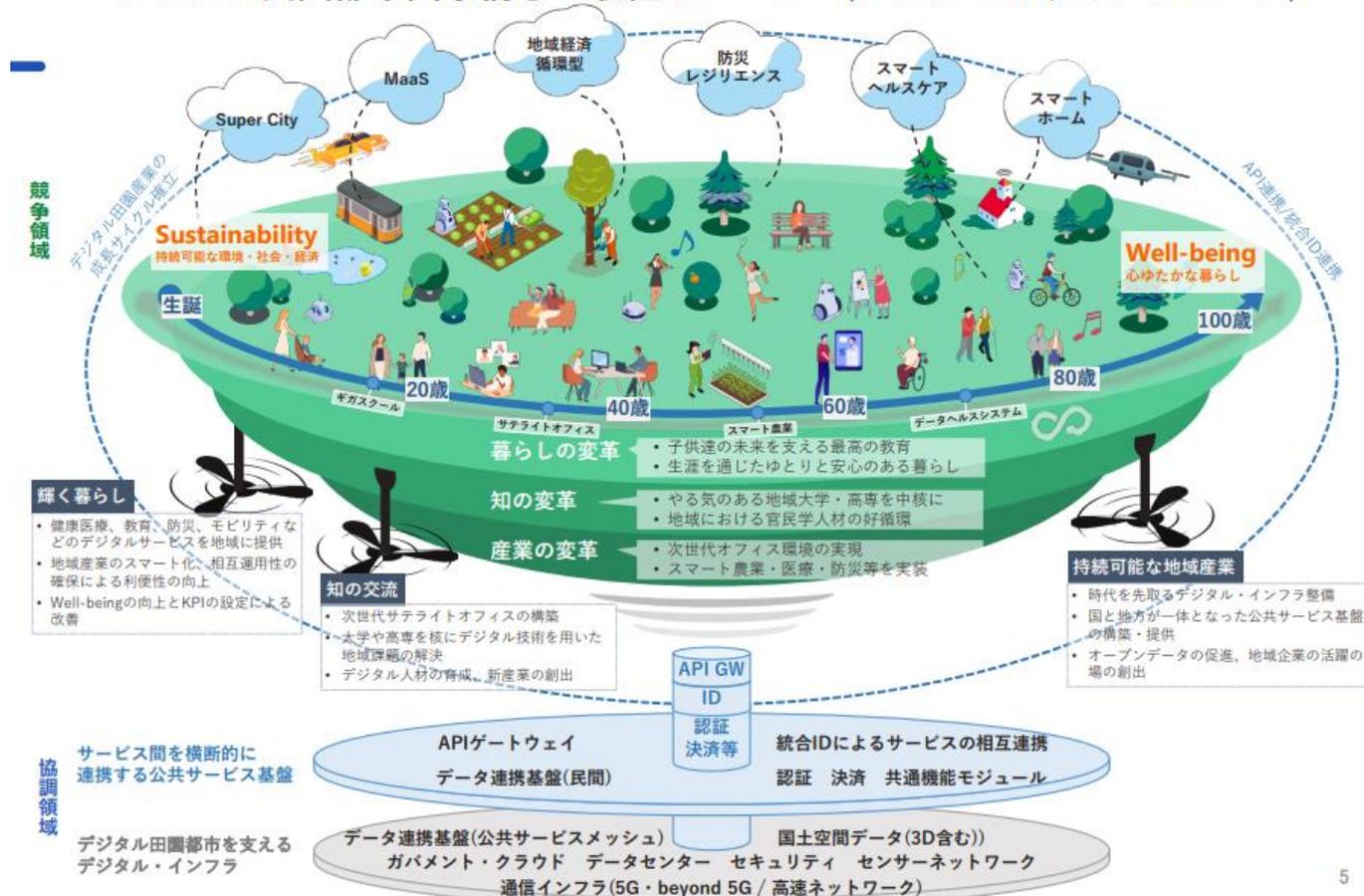
地域産業の高度化

官民学一体となった事業環境の構築

地域のWell-beingの向上と持続可能性の確保

継続的発展のための枠組み

デジタル田園都市国家構想の取組イメージ (デジタルからのアプローチ)



(参考) 上位・関連計画等の整理 | 新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性

- 国土交通省では、新型コロナ危機を踏まえ、今後の都市のあり方にどのような変化が起こるのか、今後の都市政策はどうあるべきかについて検討するため、様々な分野の有識者、合計61名に個別ヒアリングを実施。
- ヒアリングの結果を踏まえ、今後の都市政策の方向性を検討した。

■ 今後の都市政策の方向性

都市の持つ集積のメリットは活かして、国際競争力強化やコンパクトシティなどは引き続き進めつつ、「三つの密」の回避など「ニューノーマル」に対応したまちづくりが必要

職住近接のニーズに対応したまちづくりの推進



まちづくりと一体となった総合的な交通戦略の推進



緑やオープンスペースの柔軟な活用



リアルタイムデータ等の活用による、過密を避けるような人の行動の誘導



(参考) 上位・関連計画等におけるまちづくりの方向性

○また、上位・関連計画と目指すべきまちの方向性の関係を整理すると、以下の通りである。

目指すべき方向性

具体的な内容

目指すべきまちの方向性

① 広島圏域都市
計画マスタープラン

中四国地方の発展を牽引する
“中枢圏域ひろしま”

- ・コンパクト+ネットワーク型の都市
- ・活力を生み出す都市
- ・魅力あふれる都市
- ・安全・安心に暮らせる都市
- ・住民主体のまちづくりが進む都市

コンパクトな都市の構築

居住や都市機能の集約、施設の適正配置により、持続可能な都市の構築を図る。
(対応項目：①)

② 安心・誇り・挑戦
ひろしまビジョン

県民一人一人が
「安心」の土台と「誇り」により、
夢や希望に「挑戦」しています

～仕事も暮らしも。里もまちも。
それぞれの欲張りなライフスタイルの実現～

- ・経済成長と人口減少社会の課題解消を目指す「DXの推進」
- ・「ひろしまブランドの強化」と国内外からの共感の獲得
- ・生涯にわたって自己の能力と可能性を最大限に高める「人材育成」

安全・安心な居住環境の確保

災害リスクの低い安全な地域への居住誘導を図るとともにインフラの整備等を行い、ハード・ソフトの双方から安全・安心な居住環境の確保を図る。
(対応項目：①④)

上位・関連計画

③ デジタル田園都市国家構想

地方の魅力をそのままに、
都市に負けない利便性と可能性を

- ・時代を先取るデジタル基盤整備
- ・先端的サービスの普遍的提供
- ・デジタルの恩恵を地域が享受するための制度整備
- ・地域産業の高度化
- ・官民学一体となった事業環境の構築
- ・地域のWell-beingの向上と持続可能性の確保
- ・継続的発展のための枠組み

活力の創出

地域ならではの産業の活性化や、地域コミュニティの強化により、活力の創出を図る。
(対応項目：①②③)

④ 新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性

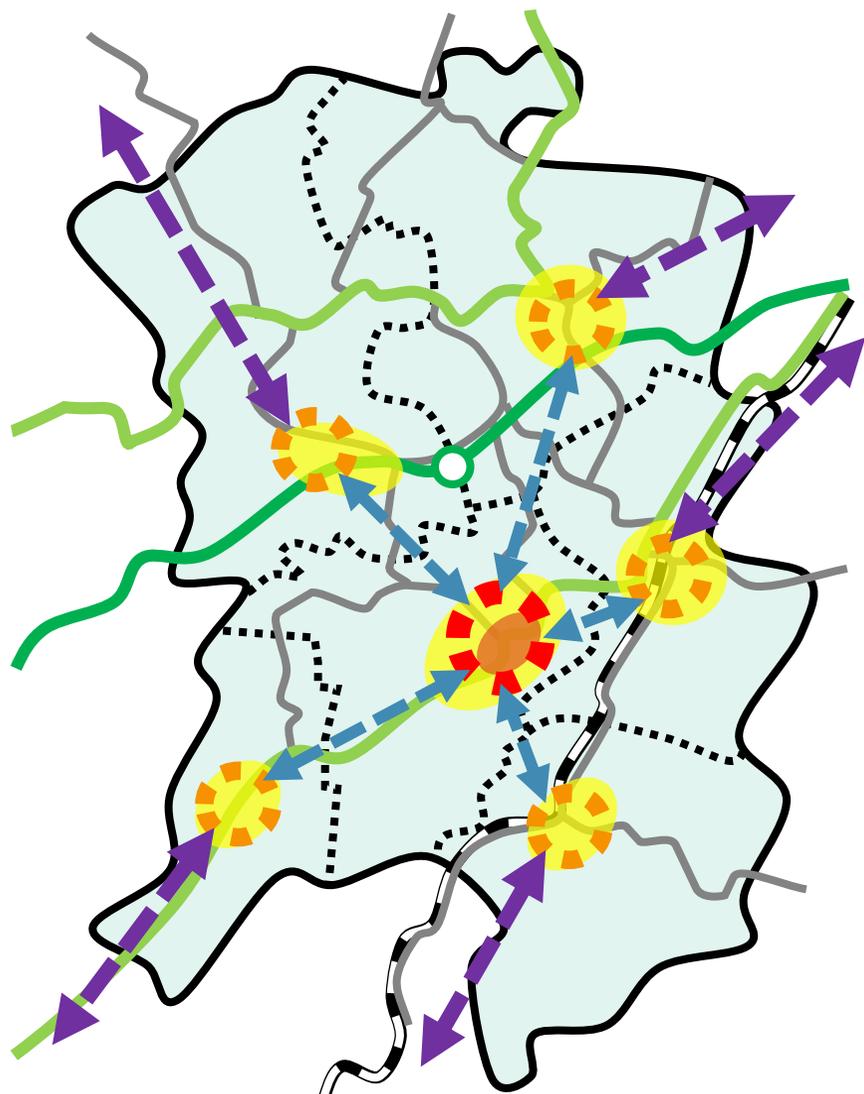
都市の持つ集積のメリットを活かして、
国際競争力強化やコンパクトシティなどは
引き続き進めつつ、「三つの密」の回避など
「ニューノーマル」に対応したまちづくりが必要

- ・職住近接のニーズに対応したまちづくりの推進
- ・まちづくりと一体となった総合的な交通戦略の推進
- ・緑やオープンスペースの柔軟な活用
- ・リアルタイムデータ等の活用による、過密を避けるような人の行動の誘導

交通アクセスの確保

誰もが都市機能等の目的地へアクセスしやすい環境の整備を図る。
(対応項目：④)

○前回の委員会で検討した将来都市構造について、前頁までに整理した社会情勢の変化を考慮したまちづくりの方向性等を踏まえ、各拠点の形成イメージ等について具体化しました。



拠点・軸



中心拠点

本市全体として必要な拠点機能を担うエリアとして、市全体を集客圏域として維持すべき都市機能（総合病院、大型スーパー、広域行政機能等）の集約を図る。
また、広島市や三次市といった広域都市圏を集客圏域とするような都市機能を市民が利用できるよう、市内外の交通結節機能の充実を図る。



地域拠点

地域住民の日常生活に必要な施設等の集約・維持を目指すエリアとして、支所機能や小規模スーパー、診療所、コミュニティセンター等の集約を図る。
特に、自家用車で広域移動やデジタル技術の活用が難しい社会的弱者が日常生活に必要な都市機能を楽しむよう、環境を整備する。



拠点間連携軸

市内の中心拠点と地域拠点を結び、拠点間のつながりを特に充実させる連携軸として、中心拠点へのアクセス環境を充実させる。



広域連携軸

周辺市町との連携により個々の都市の発展を促す軸として、幹線道路や公共交通網の維持・充実を図る。

土地利用（ゾーン）

● 賑わい創出ゾーン ● 住環境保全ゾーン ● 自然共生ゾーン

(参考) 分野別方針の見直し | 都市施設

○都市施設に関する分野別方針として、将来的に維持可能なサービス水準や産業振興等を考慮した施設整備、および都市施設の維持に向けた取組方針を追記しました（文中赤字で記載）。

■ 都市施設に関する現状・問題点

- 市民1人当たりのインフラの延長、公共施設の延床面積が大きく、今後人口が減少することで、市民1人当たりが負担すべき維持管理費の増大が懸念される。
- 既存の施設を耐用年数まで使用し、すべての施設を同規模で更新すると仮定した場合、費用が大幅に不足する。
- 橋梁等のインフラ構築物の中には、建設後50年を経過しているものもあり、今後急速に老朽化が進行していくことが懸念される。
- コロナ禍による外出行動への影響として、特に趣味・娯楽目的や、地域のイベントでの外出頻度が低下している。

■ 都市施設に関する本市の取組

- 平成22年度に橋梁長寿命化修繕計画、令和2年度にトンネル長寿命化修繕計画を策定。
- 平成27年に公共施設等総合管理計画を策定。個別計画にて、各施設の再編を検討している。
- 平成23年に学校規模適正化推進計画、保育所規模適正化計画を策定。

■ 都市施設に関する取組方針

持続可能な都市施設の運用

都市施設の合理化と長寿命化の推進

- 公共施設やインフラの長寿命化、バリアフリー化
- 学校、保育所をはじめとする公共施設の再編、配置の適正化
- 将来的に維持可能なサービス水準を想定した公共施設の利用促進
- 日常生活に必要な都市機能を拠点に維持するための行政支援
- 民間活力の導入による効率的な施設運用
- 空き屋等の既存ストックの利活用



吉田小学校 出典：吉田小学校HP

まちの活性化に向けた都市施設の運用

- 道の駅やスポーツ施設など、にぎわい創出や観光振興に資する都市施設の整備
- 人権福祉センターや基幹集会所など、地域コミュニティの場となる都市施設の利用促進
- 観光振興や地域コミュニティの活性化等に向けた都市公園の活用
- 産業振興・雇用促進に資する施設の整備



道の駅三矢の里あきたかた
出典：安芸高田市HP

(参考) 分野別方針の見直し | 交通

○交通に関する分野別方針として、中国自動車道高田IC周辺などを交通結節点として活用する旨を明記しました（文中赤字・図中緑色で記載）。

■ 交通に関する現状・問題点

公共交通について

- 鉄道や路線バス以外に、自家用有償旅客運送、デマンド型区域乗合を含めた様々な手段で地域公共交通を分担している。
- 高齢化の進行が見込まれる中、将来的に免許返納等により移動困難者が増加する可能性があり、地域住民の足を引き続きカバーし続けることが求められる。

道路について

- 大阪府と山口県を結ぶ中国自動車道が横断しており、美土里町に高田ICがある。
- 大竹市と三次市を結ぶ国道433号が美土里町、高宮町を通過している。
- 広島市と島根県松江市を結ぶ国道54号が八千代町、吉田町、甲田町を通過している。

■ 交通に関する本市の取組

- 平成30年に地域公共交通網形成計画を作成し、「みんなが使いやすい公共交通があるまち あきたかた」を実現するための基本方針を定めている。
- 広島県により、東広島高田道路（向原～吉田間）の整備が進められている。

■ 交通に関する取組方針

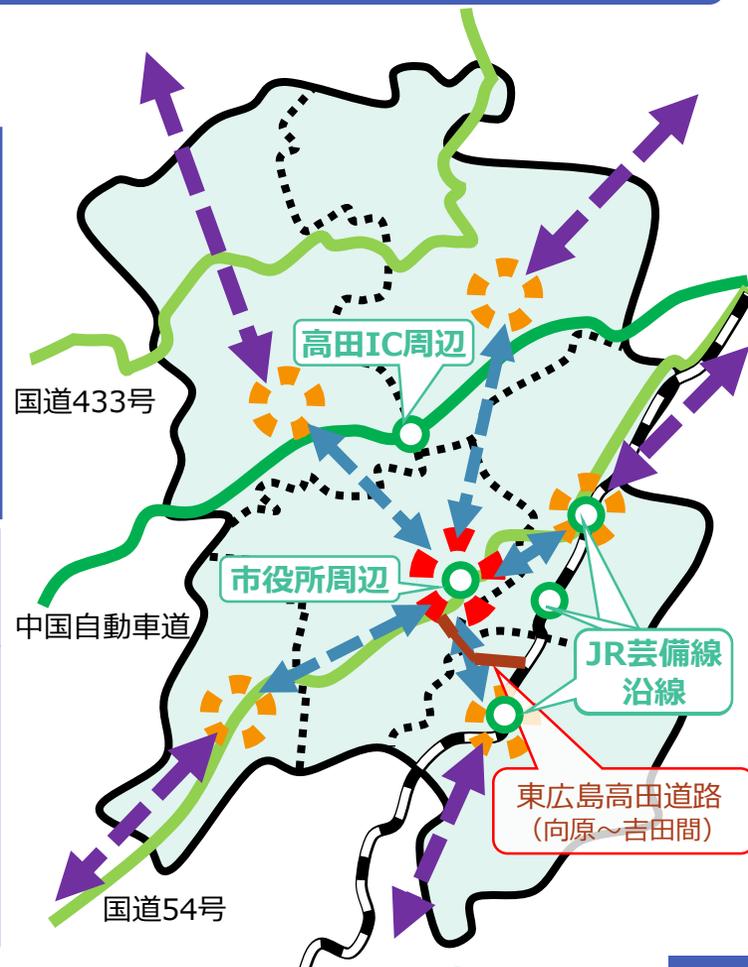
快適な生活を支える交通ネットワークの構築

日常移動を支える持続可能な公共交通サービスの構築

- 地域拠点・中心拠点へのアクセスの確保
- 中心・地域拠点間の往来がしやすい公共交通サービスの構築
- 交通弱者や公共交通空白地にも対応した柔軟性のある公共交通サービスの提供
- 効率的な事業運営

市内外の交流を促進する交通ネットワークの強化

- 広域移動を担う幹線道路網の整備・充実
- 地域内道路の整備、都市活動を支える道路の長寿命化
- **交通結節点の機能維持・強化**
- **拠点へのアクセス改善**



(参考) 分野別方針の見直し | 都市環境・景観

○都市環境・景観に関する分野別方針として、社会的弱者を含めたすべての住民に対応した生活基盤の整備を行う旨を追記しました（文中赤字で記載）。

■都市環境・景観に関する現状・問題点

- 市全体で約3割の住民が居住環境に不満があり、公共施設、医療施設、商業施設等の都市機能の充実が求められている。
- 自宅周辺に欠かせない施設として、約9割の住民がスーパー・コンビニ等を挙げているが、実情としては、約5割が居住する町外または安芸高田市外で日常の買い物をしている。また、買回り品の買い物は安芸高田市外で行う方が5割以上である。
- コロナ禍による外出行動への影響として、特に趣味・娯楽目的や、地域のイベント（自治会の会合やお祭りなど）での外出頻度が低下している。
- 人口密度の低下や高齢化の進行が予想されており、生活水準の維持や生活利便性の確保が困難となる可能性がある。

■都市環境・景観に関する本市の取組

- 平成28年に策定した第2次安芸高田市観光振興計画では、神楽や毛利元就をはじめとする歴史・文化や豊かな自然、農産物、スポーツを活用した事業の推進を定めている。
- また、第2次安芸高田市環境基本計画では、環境保全に関する基本的な方針を示している。

■都市環境・景観に関する取組方針

「住み続けたい」「訪れたい」と思える環境の形成

コンパクトなまちづくりによる生活利便性の向上

- 都市機能の適正配置、ニーズに応じた商業機能の強化
- 日常移動を支える持続可能な公共交通サービスの構築
- **高齢者や障がい者をはじめとした社会的弱者を含む**、誰もが快適に活動できる生活基盤の整備

良質な自然環境の保全・維持

- 森林や河川等の維持・管理
- 省エネルギー機器や低公害設備、再生可能エネルギーの導入推進
- ごみの減量化、資源ごみの再生利用の推進
- 生産性の高い農業経営環境の整備及び担い手の確保

地域資源を活かした観光振興

- 伝統文化の保存・継承
- 里山をはじめとした自然と触れ合う場の整備
- トップスポーツの振興
- 地域資源を活かした観光商品・プログラム等の開発推進



ひろしま安芸高田神楽 出典：安芸高田市HP

(参考) 分野別方針の見直し | 防災

○防災に関する分野別方針として、避難所でのプライバシー確保に関する取組を通し、男女問わず誰もが避難しやすくなる環境を確保する旨を追記しました（文中赤字で記載）。

■ 防災に関する現状・問題点

- 各地に浸水想定区域が広がっており、特に吉田町及び甲田町では広範囲が浸水想定区域となっている。高齢人口密度の高い地域も浸水想定区域となっている。
- 土砂災害警戒区域が市内各地に点在しており、特にJR沿線において広範囲に広がっている。土砂災害警戒区域及び特別警戒区域周辺には、高齢人口密度が高い地域も存在する。
- 浸水想定区域・土砂災害警戒区域付近の住民、特に高齢者の安全確保に配慮する必要がある。

■ 防災に関する本市の取組

- 安芸高田市地域防災計画を毎年策定・改定し、災害予防、災害応急対策、災害復旧についての計画を定めている。
- 特に、震災対策、南海トラフ地震対策については、それぞれ「震災対策編」「南海トラフ地震防災対策計画」を定めているほか、水害対策については安芸高田市水防計画を策定し、各事象に対する具体的な対応方針について規定している。

■ 防災に関する取組方針

だれもが安全・安心に暮らせる都市環境の維持

災害に強い都市基盤の整備

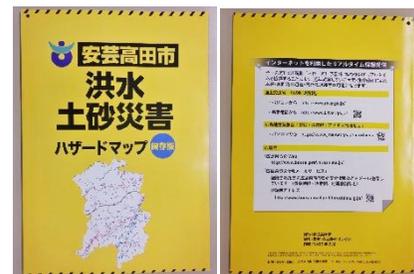
- 密集住宅市街地等の防災性向上
- 大規模盛土造成地の耐震化
- 指定避難所の防災拠点整備
- インフラ設備の耐震化・長寿命化の推進



防災拠点を持つ道の駅 出典：国土交通省HP

安心できる暮らしのためのソフト対策の充実

- 浸水、土砂災害等の災害リスクの低い区域への居住の誘導
- 災害ハザードマップ等に基づくリスクの周知・啓発
- 国や県、周辺市町村等との連携による災害対応体制の拡充
- 自主防災組織や避難の呼びかけ体制の強化
- 避難所における**プライバシーの確保への配慮等を通じた避難行動の促進**
- 防災訓練の充実



洪水土砂災害ハザードマップ

(参考) 分野別方針の見直し | 地域活性化

○策定委員会や地域別意見交換会において、地域の活力創出やコミュニティ形成に関する内容を充実させるべきという意見が多く挙げられていたことから、新たに「地域活性化」に関する分野別方針を追加しました。

■ 地域活性化に関する現状・問題点

- コロナ禍による外出行動への影響として、特に趣味・娯楽目的や、地域のイベントでの外出頻度が低下している。
- 高齢化の進行が見込まれる中、将来的に免許返納等により移動困難者が増加する可能性がある。
- 人口密度の低下や高齢化の進行が予想されており、生活水準の維持や生活利便性の確保が困難となる可能性がある。

■ 地域活性化に関する本市の取組

- 旧来のコミュニティが図られてきた大字単位や小学校区単位を主な範囲として、市内に32の地域振興組織と6つの連合組織が設置されており、住民と行政の対話を基礎とした協働のまちづくりを推進している。
- また、平成28年に策定した第2次安芸高田市観光振興計画では、「担い手づくり」「産業づくり」「ファンづくり」を3つの基本戦略とし、市民とともに地域活性化や産業振興を図ることとしている。

■ 地域活性化に関する取組方針

人と人のつながりを基軸としたまちづくりの推進

地域コミュニティの活性化

- コミュニティ形成の場としての中心拠点・地域拠点の活用
- 地域づくりに関する情報提供や懇談会等を通じた、地域振興組織による地域づくりに対する行政支援の充実
- 集会施設の維持・整備
- 地域振興組織と行政の協働による地域づくりの推進
- 地域おこし協力隊等の外部人材の受入
- UIターンや二拠点居住の希望者への情報提供
- 男女共同参画・多文化交流の推進



地域振興組織の区域図

市内で暮らしていくための雇用の場の確保

- 工業団地や中心拠点・地域拠点をはじめとした企業誘致
- 遊休農地の低減や新規就農支援、スマート農業等の推進
- サテライトオフィスの整備・活用
- 商店・企業の活性化や地域産業の育成支援
- スタートアップや地域発のイノベーション創出に向けた支援